



大船渡市議会議員

佐藤優子

活動報告

【編集・発行責任者】 佐藤ゆうこ後援会

大船渡の  
未来は  
みんなで  
つくる

# ゆうこだより

佐藤優子  
プロフィール

○1974 年 7 月 31 日 生 日 頃市町出身・現在大船渡町下平在住

【経歴】 日頃市小学校・日頃市中学校・大船渡高校・東北学院大学経済学部卒業、衆議院議員秘書、NPO 法人職員などを経て、(株)カメラ社中を起業。2020 年 5 月から大船渡市議会議員、現在 2 期目

【議会】・議会運営委員会 委員長 ・産業建設常任委員会 委員

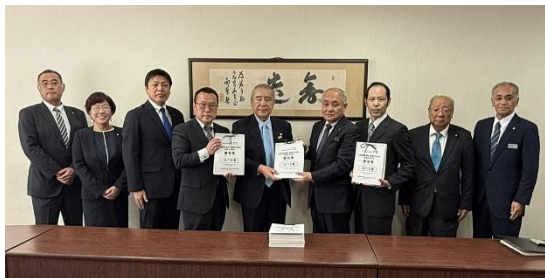
・大船渡地区消防組合議会 議員 ・議会だより編集委員会 委員

2026 年 1 月  
発行  
Vol.16

ゆうこの毎日 2025年1月～12月

事務所：大船渡市大船渡町字下平 70-1 電話：090-7283-0348 E-mai：yuko.ofunato@gmail.com

## 大船渡東高校・食物文化科存続に向けた取り組み



8 月公表「県立高校再編計画」（当初案）で、R10 年度から大船渡東高校食物文化科の募集停止が示されました。同学科は東高校で最も志願者が多い看板学科であり、調理師資格取得を通じて地域産業を支えてきました。この募集停止は、子どもたちの進路選択と地域の将来に大きな影響を及ぼすものと考えます。そのため、大船渡市議会は第 3 回定例会で存続を求める、県知事・教育長宛の意見書を全会一致で可決しました。

10 月初旬、市内 21 団体の賛同をいただき、大船渡商工会議所の米谷会長を代表に「大船渡東高校食物文化科を護（まも）る会」を

設立。各所で存続を求める署名活動を展開し、11 月 5 日、集まった 14,719 筆の署名を、岩手県・佐藤教育長にお届けしました。その後示された修正案では、東高校食物文化科の募集停止時期が R12 年度と 2 年延長されたものの、将来的に調理師養成施設が宮古水産高校へ集約される方針に変わりはありませんでした。今後、市としても気仙における高校教育のあり方の検討は急務と考えます。

## ひころいち・みんなの食堂



4 月本格オープン！プレオープンを含め 8 回開催。毎回多くの方のご参加。個人・企業さんから沢山のご協力をいただき、おいしいお食事・語らいの場を提供しています。

## ゆうこの部屋 みんなでおしゃべり会



12 月 20・21 日 ■日頃市のゆうこハウス、大船渡のゆうこ事務所それぞれ開催。話題は子育て支援から、高齢者支援まで多岐にわたりました。定期的開催を復活させようと思います。

## 大船渡地区自治協議会 令和 7 年 新年の集い



1 月 11 日 ■大船渡地区は R 6 年 4 月に地区公民館から地区運営組織へ組織変革を行い、様々なご苦勞の中、活発に活動を展開中です。

## 大規模林野火災を学ぶ勉強会



4 月 20 日 ■綾里の阿部君主催：京都大学防災研究所峠先生を招いての勉強会、オンラインを含め全国各地から約 50 名が参加。



7 月 27 日 ■お声がけいただき、綾里・田浜地区「はまゆりサロン」のお茶会へ。様々な地域課題についてお聞かせいただきました。

## 8月3日 ■ 三陸・大船渡夏まつり 8月6日 ■ 盛町灯ろう七夕まつり



3 年目となった市民有志「みんなでおどっぺし！おおふなと」両まつりの道中おどりに、今年もにぎやかに、延べ約 100 名参加。



9 月 7 日 ■大船渡地区公民館主催の地域公民館対抗グラウンドゴルフ大会。今年も平地域の選手として出場させていただきました。参加することに意義あり！体力不足を実感



## 全国地方議会サミット 2025



11 月 8・9 日 ■今年は法政大学での開催。先進事例含め多岐にわたる講師の講演はもとより、全国の議員仲間に出会えることも醍醐味であり、良い刺激をいただきます。



11 月 21 日 ■大船渡東高校食物文化科 3 年生の授業でうみねこ子ども食堂、ひころいち・みんなの食堂についてのお話をさせていただきました。今後のコラボ企画が楽しみです！

## 日頃市町関谷・ 座敷わらしのお墓の刈払い



12 月 6 日 ■石橋の鈴木昭司さんの声がけで作業を。お墓の持ち主・下関谷の佐藤和一さん、淵上市長も一緒に。郷土史に詳しい関谷の佐藤善士先生からは昔語りを。



## 令和7年第2回定例会 6月19日

### 1. 大規模林野火災による水産業への影響と、なりわい再生

**優子：**林野火災により、漁業倉庫・漁具・加工機器が焼失し、水産業に深刻な被害が出ている。東日本大震災に加え、今回の火災で二重被災となった漁業者も多く、再建への不安が大きい。漁協も補助の上乗せや見舞金対応を行っており、漁協の財政負担増が懸念される。漁業者が事業を諦めずに続けられるための支援と、現場の声を丁寧に把握する姿勢が必要ではないか。

**答弁** 水産業は市の基幹産業であり、今回の火災は極めて重大な影響と認識。国・県制度に市独自の上乗せ補助を行い、補助率の拡充などを実施し、国・県に制度がない設備については、市単独補助も行ってきた。二重被災を含め、漁協と連携しながら実態把握を継続する。

### 2. 森林復旧の進め方と、民間支援の活用

被災森林は約3,370haと広大。国・県はもとより、企業・団体の支援を積極的に生かし、併せてJ-クレジット制度を活用した森林再生と資金循環の仕組みづくりを提起。市は人工林約1,700haを森林災害復旧事業で進めるとし、企業・団体からの協力は「非常に重要」と認識。J-クレジット制度についても、将来的な財源として有効であり、実現に向け取り組むことを確認しました。



### 3. みちのく潮風トレイル(綾里区間)の再開について

倒木や地盤の緩みなど二次災害の懸念があることから、迂回ルートをあらかじめ設定することについて議論しました。

## 令和7年第3回定例会 9月11日

### 1. 第3期県立高校再編計画について

同計画では東高校食文化科の募集停止に加え、大船渡高校については、R13年度に1学級減とする方向性が示されました。学級減は教員数の減少につながり、専門教科の配置が難しくなるなど、進学を含めた学びの質への影響が懸念されます。高校は、地域の子どもの学びと将来の担い手育成の基盤であることを踏まえ、教員加配が可能な単位制高校の導入検討なども含め、気仙地域の高校の在り方について、2市1町で早期に議論を進めるべきと意見しました。

### 2. 母子保健事業の充実と体制強化について

**優子：**産後ケア事業の当市の状況は？

**答弁** 当市における産後ケア事業は、《R6年度》通所・デイサービス型を開始《R7年7月から》県立大船渡病院と連携し、支援体制を拡充。R6年度以降、こども家庭支援センターを中心に、産前・産後支援は段階的に充実してきている一方で、担い手の確保や専門職の活用が今後の課題。**\*産後ケア事業：**産後のお母さんが心身を休めていただきながら、授乳や育児の相談などが受けられる事業

**優子：**当市に、助産師資格を有する職員が在籍している現状を踏まえ、母子保健体制強化のため、助産師を専門職として位置づけ配置を検討すべきではないか。

**答弁** 助産師の専門性は重要だが、制度や体制上の課題があり、現時点での配置は難しい。今後の体制整備の中で検討していく。

### 1. 福祉の里エリアの施設運営について

Y・Sセンター浴室は、検出が繰り返されているレジオネラ属菌が再び8月に検出されて以来閉鎖中であり、再開の見通しが立っていません。

**優子：**その原因と、安全を確保するための工事期間と費用は？仮に、修繕に多額の費用を要し、継続的な維持管理が困難な場合には、利用者の安全確保および財政負担の観点から、早急に閉鎖すべき。今後の判断方針は？

**答弁** 過去に複数回レジオネラ属菌が検出。築30年以上が経過し、設備の老朽化など、構造的な要因が背景にあると認識。安全確保には、大規模な設備更新が必要であり、工事期間は数か月、費用は数千万円規模となる見込み。市としては利用者の安全を最優先とし、修繕費や維持管理の負担も踏まえ、浴室の利用継続の是非を総合的に判断していく。

**優子** Y・Sセンター浴室の代替策として、隣接する県立福祉の里センター浴室の一般利用、加えて、先般、県が示した福祉の里センターの“機能廃止を見据え、売却・移管する方向性”について、災害時の避難所機能の確保も含め、県と協議すべきでは？

**答弁** 県有施設の活用については、今後の施設の在り方を踏まえながら、県との協議の中で検討していく。

**【ゆうこの視点】**福祉の里センターが県から市へ売却・移管された場合、Y・Sセンターと両施設を同時に維持・運営することは、財政負担を考えると非常に厳しい。そのため、Y・Sセンター



の除却も含め、施設機能を整理した再編計画が必要と考えると同時に、防災機能も兼ね備えた市民体育館の建設場所とその時期を早期に決定すべきと考えます。

**優子** 大船渡市社会福祉協議会の立地について 社協の役割は多様化。市民に身近な場所で相談機能を提供する重要性が高まっていることから、大船渡市福祉センターへの移動を提案。

**答弁** 社協は関係機関と連携し、地域福祉を支える重要な役割を担っている。その機能をより効果的に発揮できるよう、連携を密に、事務局機能の移転についても意見交換を行っていく。

### 2. 公共施設等個別施設計画について

計画期間残り1年で、縮減の目標は達成。次期計画では、施設総量の適正化、長寿命化、集約・複合化を柱に検討すること。

**【ゆうこの視点】**人口減少と財政制約を前提に、公共施設を「残す」判断だけでなく、除却も含めた選択が不可欠。特に閉校した学校6施設は、地域意向を整理したうえで早期に方向性を示すべき。市民に分かりやすい説明が必要と思うことから、公共施設カルテによる客観的データの活用も1つ。



### 3. 「第3期県立高校再編計画」修正案に対する見解と今後

募集停止が2年延長されたが、集約方針はそのまま。引き続き、地域の実情や人材育成の観点から、県教委に働きかけていくとのこと。

# ゆうこ・議会 いろいろ

▶市議会として、市民と歩む議会機能向上特別委員会を組織。私は「定数等検討部会」の部会長として、議員定数、報酬・政務活動費についての今秋、答申をだせるよう検討を進めています。  
▶常任委員会や会派で視察研修に行かせていただいています。

#### ■産業建設常任委員会

11月13日富山県魚津漁業協同組合へ「海業」を学びに  
\*「海業」とは海や漁村が持つ資源を生かし、水産物消費拡大や観光による賑わい創出、漁業者の所得向上雇用創出につなげる取組。



#### ■会派「光政会」

10月23日 岡山県美咲町へ人口減少化、公共施設を大胆に再編・除却し、機能集約と小規模多機能自治で人の交流を高め、「賢く収縮」するまちづくりを実行。



#### ■日々の活動はこちらから

ゆうこ  
SNS

